

令和3年度 福井大学地域貢献事業支援金
福井で見るサンタの夢

事業責任者：細谷龍平（国際地域学部・特任教授）
代表学生：須志田千尋（国際地域学部・3年）

概要	
日下部・グリフィス基金では、明治初期に福井に招かれて来たアメリカ人教師ウィリアム・グリフィスの功績を顕彰する諸事業を実施して来た。令和3年度はグリフィスの来福150周年を記念し、特にグリフィスが当時福井で開いた日本初の公のクリスマスパーティーを、その発祥地（現グリフィス記念館）で再現するなどの諸事業を「福井で見るサンタの夢」と題し、地域貢献事業支援金も得て実施した。	
関連キーワード	グリフィス、サンタ、幸福の足袋、似顔絵コンテスト、スタンプラリー、アドベントカレンダー、白山

事業の背景および目的

本事業の目的は、福井の国際化の原点となったグリフィスへの認知度をさらに高めるとともに、同人が催したクリスマスパーティーが公のものとしては日本初であったことを広くアピールし、今後もこれを恒例行事として定着させていくことで福井の地域興しつつなげることである。

事業の内容および成果

- 福井の25偉人を描く小学生似顔絵コンテストを県内11市町の全小学校に各教育委員会の後援により実施し、約570作品の応募を得た。入賞作品68点をグリフィス記念館内で展示した（1月7日～30日）。入賞者に「幸福の足袋」（グリフィスが生徒たちに暖炉に掛けさせておいた足袋に贈り物を詰めた史実に基づいて再現したもの）を授与した。
- 福井駅からグリフィス記念館までのスタンプラリーを実施した（12月1日～25日。グリフィス記念館、日本旅行福井駅店、福井市観光案内所、西武福井店などと連携）。完了した141人に「幸福の足袋」を配布した。
- 西武福井店と洋菓子店との協働によりグリフィスケーキ（30台）とシュトーレン（50台）を制作、販売した。西武での学生によるプロモーションイベント、幼稚園児とのクリスマス会、合唱会を実施し、ケーキとシュトーレンはそれぞれ完売した。
- 福井市児童養護施設「ほほ咲みの郷」で学生による児童とのクリスマス会を実施した。児童たちに「幸福の足袋」を配布した。
- グリフィス記念館と協働で館内装飾、外壁イルミネーション及び似顔絵コンテストの前年度入賞作品をアドベントカレンダーに仕立てた展示を行った（12月1日～25日）。
- 150年前にグリフィスが外国人として初めて白山に登頂した日（8月23日）に有志の学生と担当教員（基金理事長）が記念登山した。
- 上記各行事は報道メディアで広く取り上げられた（県内各紙、テレビ、ラジオ。一部は全国配信）。市政広報でも掲載されたほか、ネット広報（基金ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、YouTubeライブ配信）、県内各所での講演、チラシ、ポスターの配布、及び各種動画の制作・普及を行った。

参考文献・添付資料および特記事項等

添付資料

- 小学生似顔絵コンテスト ポスター
- スタンプラリー台紙(1ページ目)
- 西武福井店ポスター
- グリフィスケーキについての新聞記事
- グリフィス記念館前のアドベントカレンダー展示
- 白山登山についての新聞記事
- 幸福の足袋についての新聞記事



ふくい いじん にん
福井の偉人25人のアドベントカレンダー

(かっこ内 没年)

1. 継体天皇 (531) 14. お江(崇源院) (1626)
2. 泰澄 (767?) 15. 岩佐又兵衛 (1650)
3. 紫式部 (1019~) 16. 近松門左衛門 (1724)
4. 道元 (1253) 17. 杉田玄白 (1817)
5. 新田義貞 (1338) 18. 橋本左内 (1859)
6. 道如 (1499) 19. 橘嘆覧 (1868)
7. 朝倉義景 (1573) 20. 横井小楠 (1869)
8. 明智光秀 (1582) 21. 日下部太郎 (1870)
9. お市の方 (1583) 22. 松平春嶽 (1890)
10. 柴田勝家 (1583) 23. 由利公正 (1909)
11. 大谷吉繼 (1600) 24. 岡倉天心 (1913)
12. 結城秀康 (1607) 25. ウィリアム・E・グリフィス (1928)
13. 京極高次 (1609)

おうぼ ようりよう 応募要領

応募の仕方は先生やお母さんお父さん、お姉さんお兄さんにも相談しよう！

対象 福井県内の小学生（全学年対象）

募集期間 2021年11月1日（月）～12月7日（火）

応募方法 A4の紙（質は問わない。タテ使い）に、上記の福井の偉人25人の誰かの似顔絵を描く。応募者ごとに偉人3人まで。1枚に1人を描き、偉人ごとの応募は1枚だけにすること（複数応募した人は1偉人の作品だけが受賞対象になる）。各市町にゆかりがある偉人や、比較的知られていなかった偉人の作品も歓迎）。似顔絵のスタイルは自由。

作品原本（コピーは不可）の裏面に、氏名と、所属の小学校名、学年、自宅の住所（学校でまとめて応募する場合は学校の住所）、Eメールアドレス、および連絡ができる電話番号（学校でまとめて応募する場合は担当の先生の連絡先）を記入。期間内に、封筒（大きさ自由）に入れて次の住所宛に郵送する（12月7日までに必着！）

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9-1 福井大学内
日下部・グリフィス学術・文化交流基金事務局

区分 1・2年生（低学年）の部、3・4年生（中学校年）の部、
および5・6年生（高学年）の部

審査 グリフィス・シスターズ＆サン（福井大学国際地域学部学生16人）が、各部ごとに、それぞれの偉人の最優秀作品を選ぶ。

審査基準 1. オリジナリティーがある
2. 心が伝わって来る
3. 人物の特徴をよく捉えている
4. 年齢にふさわしい表現
5. デッサン力がある

審査結果の発表 12月22日（水）に右のQRコード
(日下部・グリフィス基金)のサイトで発表する。
(入賞者には別途連絡します)



表彰式 賞状と賞品（クリスマス足袋）の授与式を12月25日（土）の次の時間に、グリフィス記念館（福井市中央3丁目5番4号）で行う。
(上記ウェブサイトでライブ配信します)

12:30～13:30 低学年
13:30～14:30 中学年
14:30～15:30 高学年

入賞者は身分を証明できるものを持参し、マスク着用のこと。
同伴者は2名までお願いします。

表彰式に出られない人は12月26日（日）の開館時間（10:00～18:00）
に記念館事務所に身分証明持参で賞状と賞品を取りに来ること。

展示 入賞作品は1月7日（金）から30日（日）までグリフィス
記念館内で展示します。

アドベントカレンダー クリスマスまでの25日間、
毎日一つずつ窓を開けていくカレンダー。今年は、
福井の25偉人にちなんだアドベントカレンダー
をグリフィス記念館前の広場でイルミネーション
に立てます！またそれに合わせて、福井駅
から記念館までのスタンプラリーも行います！

お問い合わせ kusakabe-griffis@ml.u-fukui.ac.jp



グリフィスの家（記念館）

ウィリアム・E・グリフィスは、1871年12月25日、ここに生徒
などを呼んで、日本で初めての公のクリスマス・パーティーを開きました！

主催：公益財団法人 日下部・グリフィス学術・文化交流基金
参加：福井大学国際地域学部 グリフィス・シスターズ&サン

支援：福井大学地域貢献事業支援金から一部助成

後援：福井県教育委員会、福井市教育委員会、敦賀市教育委員会、小浜市教育委員会、
大野市教育委員会、勝山市教育委員会、鯖江市教育委員会、あわら市教育委員会、
越前市教育委員会、坂井市教育委員会、永平寺町教育委員会、越前町教育委員会

しょ
う
が
く
せ
い

小
学
生

か
し
お菓子入り
クリスマス足袋
がもらえる！



に 似 顔 絵 コンテスト

ふくい にほん
福井は日本のクリスマス・
パーティー発祥の地です！
その150周年に、似顔絵
を描いて、グリフィスサンタ
からの特別のプレゼントを
ゲットしませんか！

ふくい いじん だれ
福井の偉人25人の誰か
(3人まで)の似顔絵を
描いて応募しましょう！



グリフィス来日150周年記念 クリスマス・スタンプラリー

Stamp Rally in Fukui Commemorating William Griffis's
First X'mas Party in Japan

2021年 12/01(水)~12/25(土)

参加無料

平日 16:00 - 17:30

休日 10:00 - 17:30

※開始時刻から各チェックポイントでスタンプを押せます。

終了時刻までにグリフィス記念館に到着してください。

ウィリアム・グリフィス

アメリカ人教師グリフィスは、福井で日本初の公のクリスマスパーティーを催しました。
このスタンプラリーはその発祥地、今のグリフィス記念館が終着点です。

クリスマス足袋プレゼント！

グリフィスは150年前のクリスマスイブ、生徒にあげるプレゼントを
靴下ではなく「足袋」の中に、夜中こっそり詰めました。

このカードの裏面に書かれたミッションをクリアし、
グリフィス記念館の裏の事務棟受付からクリスマス足袋をGetしましょう！



主催 公益財団法人 日下部・グリフィス学術・文化交流基金

参加 福井大学国際地域学部学生グループ Griffis Sisters & Son

Website



Facebook



Twitter



Instagram



福井で見る サンタの夢

150 周年



ウィリアム・グリフィスは1871年に日本ではじめてのクリスマスパーティーを福井で開きました。西武福井ではその150周年を記念し、グリフィスをイメージしたクリスマスケーキ「マスタッッシュショコラ」と、クリスマスに向かって毎日窓を開けていくアドベントカレンダーにちなんだ「グリフィスアドベントシュトーレン」を発売中です。

またグリフィスのクリスマス150周年を記念して次のコンサートを行います。

福井市少年少女合唱団によるクリスマスキャロルの夕べ

■12月23日(木) 17:30~ ■会場：西武福井店正面入口

西武福井店

提携 公益財団法人 日下部・
グリフィス学術・文化交流基金



福井



福井支局

〒910-0005 福井市大手3-14-9
■(代)0776-22-5220 FAX 22-5222

敦賀支局

〒914-0803
敦賀市新松島町4-13 内田ビル2階
■0770-22-1090 FAX 22-4485越前通信部 ■0778-22-1563
大野通信部 ■0779-66-2263
小浜通信部 ■0770-56-5586

ホームページ

www.yomiuri.co.jp/local/fukui/

広告のご用は ■0776-23-4106

読売旅行は
福井 ■0776-27-1818
敦賀 ■0770-20-1200

4円(税込み)で限定30個、「グリフィスアドベントシ
ツ・ショコラ」は626
まで予約を受け付ける。チ
ヨコレートケーキ「マスター
西武福井店で、11月30日
ほしい」と話した。

校・高校の一貫教育や高校
・大学連携を目指す。空き
間に高校を設置し、小中学

明治初期に福井藩の教師
を務めた米国人ウイリアム
・エリオット・グリフィス
(1843~1928年)
がクリスマスパーティーを開いてから150年を迎えることを記念して、福井大

井大の学生と、パティシエ
ークス大学と交流のある福
井大の学生と、パティシエ
ークスの母校ラトガ
ンだ。

約3か月かけて完成させた。
グリフィスがパーティー
約3か月かけて完成させた。
グリフィスがパーティー
約3か月かけて完成させた。
グリフィスがパーティー
約3か月かけて完成させた。

福井大生 明治の米国人教師ちなみむ

Xマスケーキ歴史感じて



クリスマスケーキ作りに携わった学生たち(福井市で)

「シュトーレン」の2種類。

ユトーレン」は3564円
(同)で限定50本。

でココアを振る舞つたこと
にちなんだチョコレートケ

ーと、ドイツの伝統菓子

「ケーキには、福井市グリ

フィス記念館の緑の外壁を

入りクリーミーで縁取りし

た。シュトーレンには数種

類のスペイスが使われてい

た。シュークリームには少

ずつ切って食べ、味の変化

を楽しめるという。

参加した学生の一人は
「このケーキが大切な人の
会話のきっかけになつて
ほしい」と話した。

西武福井店で、11月30日
充氏(48)に続いて2人目。
3選を目指す現職の河合永
日投開票の永平寺町長選
に、元県立大教授の工藤進
氏(72)が22日、無所属で立
候補する意向を表明した。

永平寺町長選に
工藤氏出馬表明

来年2月15日告示、同20

日投開票の永平寺町長選

に、元県立大教授の工藤進

氏(72)が22日、無所属で立

候補する意向を表明した。

同町長選への出馬表明は、

この日、福井市内で記者

会見した工藤氏は「大学を

活用し、水などの自然エネ

ルギーを利用すれば、町を

変えられる」と説明。「町



明治初期に福井藩に招かれた米国人教師W・E・グリフィスが1871年に来福して今年は150年。その足跡を訪ねて、学生と白山登山した福井大國際地域学部の細谷龍平特任教授にグリフィスへの思いについて寄稿してもらった。

× × × ×

藩校明新館で當時最新の化学理論などを教えたグリフィスは、71年8月に夏休みを使って白山に登りました。これは、外国人として初めての登頂とみられています。

その150周年の8月23日に国際地域学部の学生4人と白山に登り、グリフィスの足跡をたどりました。これは同学部で力を入れている課題探求型学習の取り組みでもありました。

日本の自然をよく愛していたグリフィス。白山の美しい姿には、以前に行なったスイスで見たモンブラン（フランス語）で白山の

意を重ねて見ていましたと思われます。また、後に「日本本の宗教」を著した彼は、信仰の山としての白山にも深い関心を持ったことでしょう。

彼が日本の歴史と、福井などでの体験を記した代表的著書「皇國」などによると、グリフィスと同行者7人は8月21日早朝に福井を出発、勝山と白山麓の宿場を経て、23日に登頂を果たしました。頂上では水を沸かせて沸点を測り、白山の標高を約2800（実際は2702）メートル割り出して、それまで地元では富士山より高いと思われる足跡をたどりました。

その時の頂上で感動を細に記しています。以下はグリフィスの研究家、山下

グリフィス来福150年に寄せて 細谷龍平・福井大特任教授

「真理」福井で見いだす

英一さん（越前市）の訳をお借りした一部の抜粋です。

「白山の頂上からの眺めは雄大でした。噴火によるたくさんの岩の碎片。雪渓。小さな池。四方八方を見渡す限り峰々が孤高を持ってそびえていました。谷といふ谷には漂う白いもやが渦を巻いて立ちこめ、東の空には3つの虹が輝きました。日没は、最後の審判の日の恐ろしい始まりに見えました。左手に虹、右手にぞつとする薄暗闇、その間に水平な太陽の光線が銀色に輝く雲の中に差し込みました。勢いよく吹く風と永遠の静寂のなかにそびえる

永久の山々。それに、不思議な空の景色が加わりました。

今は3つの虹が輝きました。日没は、最後の審判の日の恐ろしい始まりに見えました。左手に虹、右手にぞつとする薄暗闇、その間に水平な太陽の光線が銀色に輝く雲の中に差し込みました。勢いよく吹く風と永遠の静寂のなかにそびえる

永久の山々。それに、不思議な空の景色が加わりました。



8月23日
外国人として初めて登頂したとされるグリフィスの足跡をたどり、白山に登った細谷教授（右）と学生＝

方で人間の真理でもあります。当時700年続いた日本の封建制度の終焉（廢藩置県）という歴史的現場に、グリフィスは福井で外国人として唯一、立ち会いました。そこで、どんな制度もいつかは終わるという歴史のことわりを感じたことでしょう。

一方で彼は、アメリカの家族と最愛の婚約者とも別れてきた孤独な一人の人間として苦悩します。しかし、福井の人情、そして日本の自然と文化に触れ、そこに世界共通の普遍的価値を見出しました。この経験が伝わってきます。

今回はコロナ対策の万全を期した上、天気の好転を祈つての登山でした。幸い23日前中は霧の晴れ間に恵まれて登頂できました。頂上ではグリフィスに倣つて水の沸点の計測も行いましたが、これは残念ながら不正確な結果に終わってしまいました。

私が理事長を務めさせていただいている「日下部・グリフィス学術・文化交流基金」では今後、このようなグリフィスの功績と思いをさらに浸透させて次世代につなぎ、地域の振興に寄与できるよう、さらに諸事業を企画、展開していくことにしています。

月

暮らす

火

科学 生きる

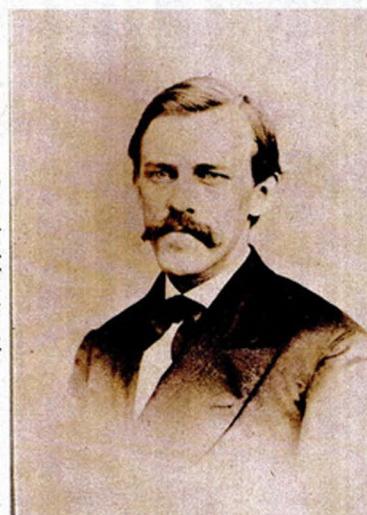
水

文化 学芸 こだま

木

健康 楽しむ 学芸

グリフィス来福150年



ウィリアム・グリフィス

文化交流基金では、150年前の11月間にアメリカ人教師ウィリアム・グリフィス（1843～1928年）が福井に残した足跡を、記念行事とともにたどりました。

グリフィスは1871年12月、日本で初めての公のクリスマスパーティーを福井で開き、翌年1月に福井を去りました。

寄稿

日下部・グリフィス学術・文化交流基金理事長

台はグリフィス自身が書いた文書、特に福井滞在中の日記と家族に送った手紙、帰米後に出版してベストセラーとなり、日本の権威としてのグリフィスの名聲を確立した「ミカドズ・エンパイア」の3文獻です。

グリフィスが生涯にわたって発信し続けた日本の正しい姿。中でも福井のことは彼の心に特別な烙印を残したことなどが読み取れます。まず当時の福井藩に招かれて来たことは歴史的必然でした。幕末明治の国政に重責を担い華國一致体制を目指していた松平春嶽が、藩政の改革と洋学を推進したことが背景にあります。

福井藩でグリフィスは廢藩置県という歴史的大転換点立ち会った唯一の外国人となりました。鎌倉幕府以来700年間続いた封建制度を、福井藩は明治政府の布告待たずに率先して終焉させました。のちに彼は「ミカドズ・エン

パイア」で、明治維新の眞の原動力は黒船の来航ではなく、日本の中で長年蓄積してきた知的なエネルギーであり、歴史の必然であったと

れば、それは公のグリフィスの歴史とキリスト教の伝統に生きていた生徒たちと聖書を読んで氣心を通じて、使用しててくれた新しい洋館の家に

中に贈り物を詰めた足袋。150年前をイメージして制作し、イベントなどで配った

「幸福の足袋」に込めた人類愛



本の宗教」と題する著作の中で、宗教はたくさんあるが宗教は一つであるとして、進歩的な多元的宗教觀を表明しています。

グリフィスの福井での11ヶ月間は「私」のレベルでの個人的体験、「公」のレベルでの歴史観と文明觀にもつながった奇跡的な心の軌跡であったと言えます。また、当時は日本の奥地であったローカルな福井をグローバルな世界に繋いだという点で「グローバル化」を真に体現した人で

が福井に見いだした一つの真理と言えます。そして12月24日には「家族」住み込んでいた生徒たちと聖書を読んで気心を通じて、使用に足袋を暖炉につり下げさせて寝かしつけた後、贈り物を詰めました。25日には他の生徒、教員、藩の役人も合わせて60～70人を招いたクリスマスパーティーを開きました。単に楽しい思いを親しくして、福井藩から手厚いサポートを受けて明新館での教師としての仕事に打ち込み一方、福井の伝統文化と自然、それから人々の優しさ、人情にも触れて、福井は誠に文字通り「幸福の井戸」である感得しました。

廢藩後、東京に優秀な人材が流出していく中で、寒さもまた異なる文化があるが、人の心はどうでも皆同じである、その分かり切ったことの中にこそ目新しさがあると述べています。異文化は全て人類の

共通ヒューマニティーに包摂されているということを、150年前の福井で悟ったのです。宗教についても同じで、オランダ改革派教会の牧師になつたグリフィスは、後年「日本の宗教」と題する著作の中で、宗教はたくさんあるが宗教は一つであるとして、進歩的な多元的宗教觀を表明して

（福井大特任教授）